

横浜市立万騎が原中学校 学校だより



桐の花

令和5年

9月22日

校長 綿貫 芳人

横浜市旭区万騎が原 31 TEL 045-391-5514 FAX 045-391-5537

URL <http://www.edu.city.yokohama.lg.jp/school/jhs/makigahara/index.cfm>

私たちができること

校長 綿貫 芳人

ひとりの暑さも少し落ち着きを見せ、朝晩は秋の気配も感じられるようになりました。長い夏休みを終えて、新たな気持ちでスタートを切っています。この後の教育活動においても丁寧に生徒たちを支援していきます。どうぞご協力いただけますようお願いいたします。

さて、私は先日「修学旅行研究会 北海道修学旅行現地研修会」に参加してきました。実際に北海道に行き、横浜の中学校の新たな修学旅行先として模索することが目的です。その行程の中で、私はとても素敵な町に出会うことができました。旭川市にある東川町という所です。現地の観光課の方は、「奇跡の町」と言いました。なぜ奇跡の町なのでしょう。それは年々居住人口が増えているからです。ではなぜ増えているのでしょうか。それは、東川町の様々な取組によるものです。

その1つが、「君の椅子」プロジェクトです。これは、地域で生まれた子どもたちに「生まれてくれてありがとう」「君の居場所はここにあるからね」という思いを込めて椅子を贈る取組です。椅子は、毎年変わるオリジナルのデザインをもとに、職人さんが手作りをしたもので、座面の裏に名前や生年月日、プロジェクトロゴや一連番号が刻印されています。大量生産され、ワンクリックで翌日に物が届く時代において、この取組はなんて素敵なんだろうと思ひ、心が温かくなりました。小さな生命が誕生してから、はじめて椅子づくりが始まり、生後100日頃に直接贈呈されるそうです。作られた「椅子の数」が産声を上げた「新しい生命の数」であることにロマンを感じます。また、椅子の完成を待っている間のワクワクする気持ちや、わが子を椅子と対面させた場面を想像すると胸がいっぱいになります。

「役場で小さな椅子を小脇に抱える姿を見た人が、“おめでとう”と言える街の風景を作りたかった。」このプロジェクトの代表 磯田憲一さんの言葉です。私は、私たちの学校はどうだろうか、私たちの住んでいる地域はどうだろうか、と考えました。「笑顔であふれる学校や街づくり」「自分の居場所だと感じられる学校や街づくり」について考える機会を与えてもらいました。夏休み明け、ある生徒と会話した場面が浮かんできました。私が「夏休みは楽しかった？」と尋ねたところ、「楽しかったけど、しばらくすると早く学校に行きたいと思っていました。」と答えてくれました。もしかしたら、この生徒にとって、万騎が原中学校は居場所になっているのかな、そうだといいな、と思いました。生徒一人ひとりが、自分が住んでいる家や地域、自分が通っている学校を居場所だと感じ、安心して育っていけるように、私たちに何ができるか、どんな手段があるのかをみんなで見つけたいです。